

溝上 慎一の教育論(動画チャンネル) Number 5

※動画で用いるスライドはPDFで動画下にリンクで貼り付けています

## ②千々布敏弥先生との対談 — 高等教育AL論との接続／佐藤学の授業研究批判—

溝上 慎一 Shinichi Mizokami, Ph.D.

学校法人桐蔭学園 理事長  
桐蔭横浜大学 学長・教授

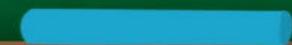
<http://smizok.net/>  
E-mail [mizokami@toin.ac.jp](mailto:mizokami@toin.ac.jp)

学校法人河合塾 教育研究開発本部 研究顧問

【プロフィール】 1970年生まれ。大阪府立茨木高校卒業。神戸大学教育学部卒業、1996年京都大学助手、2000年講師、2003年准教授、2014年教授を経て、2019年4月より現在に至る。京都大学博士（教育学）。

\*詳しくはスライド最後をご覧ください

※本動画は溝上が個人的に作成・提供するものです



# 前回①では以下の点について議論がなされました

- 文科省施策において「主体的・対話的で深い学び」が意味するもの
- 学習者（子供）を主語にした主体的・対話的で深い学びを授業者（教師）に返していく

## 千々布敏弥 先生のご紹介

ちちぶ としや



国立教育政策研究所 研究企画開発部  
総括研究官

九州大学大学院博士課程中退、文部省入省。その後、私立大学教員を経て、1998年から国立教育研究所（現・国立教育政策研究所）の研究官となり、現在に至る。



## 今回の企画（Number5）

千々布先生の新著



『先生達のリフレクションー主体的・対話的で深い学びに近づく、たった一つの習慣』教育開発研究所（2021年11月刊行）

から、大きく2点についてご説明いただき、溝上と対談をして理解を深めます。

- ① 「主体的・対話的で深い学び」が施策化された背景・舞台裏
- ② 佐藤学による授業研究批判  
石井英真による佐藤学批判と教授学再興

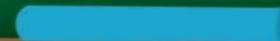


本日②では以下の点について議論がなされます

- (溝上補足講義)

高等教育・高大接続でアクティブ・ラーニングはどのように提起されていたか(復習)

- (千々布続き) 佐藤学の授業研究批判



続きをご覧ください

# アクティブラーニング型授業

講義+アクティブラーニング（書く・話す・発表する等の「外化」）

大  
学



+



中  
学・高  
校



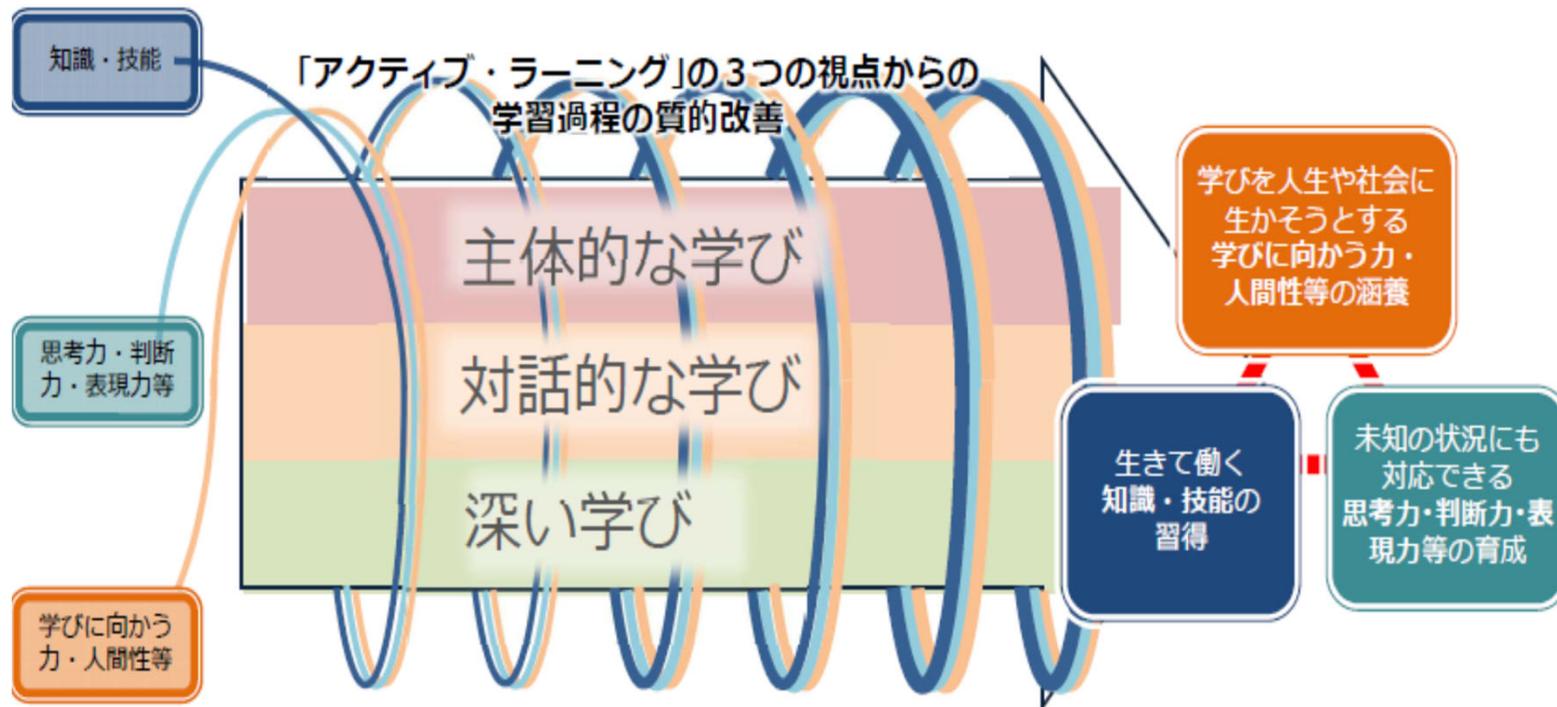
+



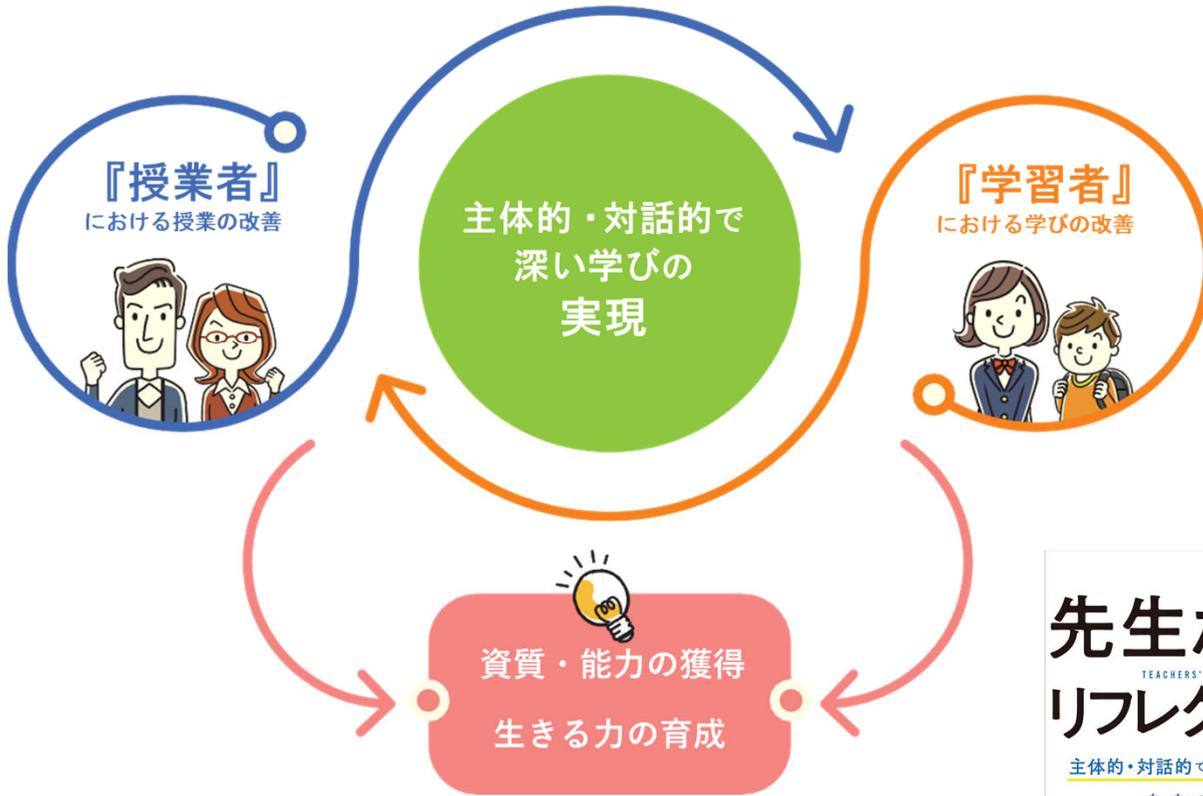
Readings 溝上慎一の教育論 <http://smizok.net/education/>

- ・（理論） 「大学教育におけるアクティブラーニングとは」
- ・（理論） 「初等中等教育における主体的・対話的で深い学びーアクティブ・ラーニングの視点」

# 新学習指導要領 主体的・対話的で深い学び（「アクティブ・ラーニング」 の視点）



# 学習者の視点と授業者の視点の往還



千々布先生の講義スライドより



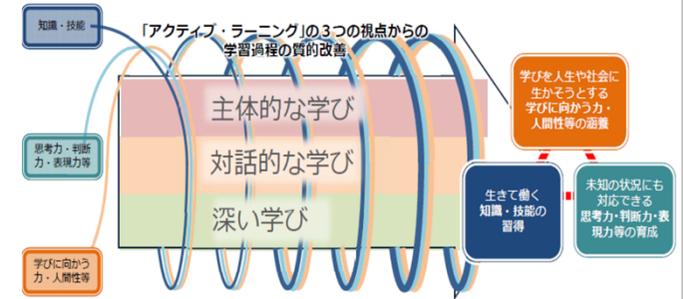
## アクティブラーニング型授業

講義+アクティブラーニング(書く・話す・発表する等の「外化」)



Readings 溝上慎一の教育論 <http://amizook.net/education/>  
・(理論) 「大学教育におけるアクティブラーニングとは」  
・(理論) 「初等中等教育における主体的・対話的で深い学び-アクティブ・ラーニングの視点」

## 新学習指導要領 主体的・対話的で深い学び(「アクティブ・ラーニング」 の視点)



# 佐藤学による授業研究批判

- 「授業研究」の過去三〇年間の歴史は、教育知識の理論的専門家による占有と特権化を助長して、教師の専門的オートノミー（自律性）を衰退させ、教師の成長を「技術的習熟」の領域に限定してきた。（佐藤, 1992, パンドラの箱を開く）
- 「技術的実践」を志向する「授業の科学」は、どの教室にも通用する一般的な技術的原理を探求する研究である。（略）「反省的実践」を志向する「授業の探求」は、教室の事実と事実の間の見えない関係を読みとって、そこに生起している出来事の意味や経験の意味を探求する研究である。（佐藤, 1996, 授業研究入門）

ご視聴有難うございました

—To be continued—

チャンネル登録をお願いします

質問、コメントは個人メールで受け付けます。

E-mail [mizokami@toin.ac.jp](mailto:mizokami@toin.ac.jp)

- お名前、ご所属

※可能なら専門分野や教科、職位なども教えてください、回答の助けになります。  
なお、動画内では個人のお名前等は出しません。

- 質問、コメント等



学校法人桐蔭学園 理事長  
桐蔭横浜大学 学長・教授

1970年生まれ。大阪府立茨木高校卒業。神戸大学教育学部卒業、1996年京都大学助手、2000年講師、2003年京都大学准教授、2014年教授を経て、2018年9月に学校法人桐蔭学園へ。2019年同理事長、2020年より現職。京都大学博士（教育学）

日本青年心理学会理事、大学教育学会理事、“*Journal of Adolescence*” Editorial Board委員、文部科学省高等教育局スキームD（座長）、中央教育審議会初等中等教育局臨時委員、総合教育政策局リカレント教育審査委員、大学・高校の外部評価・指導委員など。日本青年心理学会学会賞受賞。

専門は、青年・発達心理学・教育実践研究（自己・アイデンティティ形成、自己の分権化、学びと成長、アクティブラーニング、学校から仕事・社会へのトランジション、人生100年時代のキャリア形成など）。著書に『自己形成の心理学—他者の森を駆け抜けて自己になる』（2008世界思想社、単著）、『現代青年期の心理学—適応から自己形成の時代へ』（2010有斐閣選書、単著）、『アクティブラーニングと教授学習パラダイムの転換』（2014東信堂、単著）、『アクティブラーニング型授業の基本形と生徒の身体性』（2018東信堂、単著）、『学習とパーソナリティ—「あの子はおとなしいけど成績はいいんですよね！」をどう見るか—』（2018東信堂、単著）、『高大接続の本質—「学校と社会をつなぐ調査」から見えてきた課題—』（2018学事出版、編著）など多数。

<http://smizok.net/>



# 著作紹介

溝上慎一 (2020). 『社会に生きる個性—自己と他者・拡張的パーソナリティ・エージェンシー—』  
(学びと成長の講話シリーズ3) 東信堂

## 第1章 自己と他者の観点から見る学びと成長

1. 人の発達において他者理解は自己理解に先立つ
3. 自己とは——他者との対峙を通して発現する一個存在
6. 講義—辺倒の授業における学習においてさえ他者は組み込まれている
7. 学習プロセスに他者を組み込む——ペア・グループワークはなぜ求められるのか
9. リフレクション（振り返り）はメタ認知を働かせた言語活動
10. 自己内対話と学習

## 第3章 エージェンシー

1. OECDの学習者のエージェンシー
3. バンドューラのエージェンシー論—四つの特徴
5. 自己肯定感を高めるのではなく、自己効力感（エージェンシー）を高めよ
6. 内発的動機づけ・自己決定理論——主体的な学習の第I～II層
7. 記憶の情報処理から見た学習—自己関連づけ・自己生成

## 第4章 教育雑考

2. 自分が生徒の時にはアクティブラーニングをしてこなかった。なぜ今の生徒にここまで求めるのか
3. 社会に生きる個性を育てる——教授パラダイムと学習パラダイムに関連づけて
4. 生徒はアクティブラーニングを熱心におこなうが、教師は成果としての手応えを感じない。そこで起こっていることは？
5. アクティブラーニングと評価

